

4 児童養護施設等に入所している子ども

(1) アンケート調査結果

アンケート 23名(男9名、女13名、不明1名)

一時保護所	5名	児童養護施設	18名		
17歳	1名	14歳	3名	11歳	3名
16歳	2名	13歳	4名	10歳	3名
15歳	4名	12歳	2名	不明	1名

川崎市の一時保護所(1か所)および児童養護施設(2か所)において、アンケート調査およびヒアリング調査を実施した。

本件調査は、サンプル数が著しく少ないので、第1部の調査結果との比較はもちろん、統計的にも有意なものとして扱うことはできないが、一時保護所や児童養護施設で生活している子どもの一部の「意向」として捉えるべきものである。

今回の調査からは、一時保護所ならではの結果(学習の保障、持ち物の制約、等)が得られた。

1 子どもの権利条例に定められている制度についての認知度が低い。

条例については、「知っている」10名(43.5%)であり、第1部の調査結果(41.0%)と同程度であるが、条例に定められている制度について、「1つも知らない」12名(52.2%)との回答が最も多く、個々の制度の認知度も第1部の調査結果より低い。特に、児童養護施設や一時保護所に入所している子どもにはぜひ知っておいてほしい人権オンブズパーソンについて、「知っている」と回答した子どもが3名(13.0%)と少ない。

2 大切だと思う子どもの権利として「安心して生きる権利」をあげる子どもが最も多い。

「安心して生きる権利」13名(56.5%)が最も多く、次いで、「自分で決める権利」9名(39.1%)、「自分を豊かにし、力づけられる権利」7名(30.4%)との回答が多い。

3 自己肯定感や自尊感情について肯定的な回答の割合が低い。

自分のことが「好き」との回答は皆無であった。「まあ好き」11名(47.8%)であり、「好き」「まあ好き」を合わせて47.8%だが、第1部の調査結果(72.9%)と比較して低い。

また、まわりの人から大切にされていると「感じている」5名(21.7%)、「まあ感じている」11名(47.8%)を合わせると69.5%(第1部の調査結果92.2%)、生まれてきて(生きていて)よかったと「思う」7名(30.4%)、「まあ思う」11名(47.8%)を合わせると78.2%(第1部の調査結果91.4%)であり、いずれも第1部の調査結果より肯定的な回答が少ない。

4 楽しくて夢中になれると感じるときとして、学校の休み時間やクラブ活動・部活動、一時保護所や施設の行事をあげる子どもが多い。

「楽しく夢中になれると感じるとき」としては「学校の休み時間」(児童養護施設のみ)8名

(44.4%)「一時保護所の外出」(一時保護所のみ)2名(40.0%)、クラブ活動・部活動(児童養護施設のみ)7名(38.9%)、「外で遊んでいるとき」(児童養護施設のみ)5名(27.8%)、「一時保護所・児童養護施設の行事」6名(26.1%)との回答が多い。学校の休み時間やクラブ活動・部活動、外で遊んでいるときをあげる子どもの割合が多いことは第1部の調査結果と同様であるが、一時保護所の外出や、一時保護所・児童養護施設の行事をあげる子どもの割合も高く、学校生活での行事とは異なる面での楽しみととらえている子どもが多い。

5 つらくてどうしようもない体験が「ある」と答えた子どもが圧倒的に多く、そのとき「がまんした」子どもが多い。

つらい体験につき「ある」と答えた子どもは17名(73.9%)と第1部の調査結果(34.1%)より圧倒的に多い。その内容は、「家族からたたかれた等」4名(17.4%)、「友達や先輩から無視された等」4名(17.4%)、「先生や施設の職員からたたかれた等」3名(13.0%)、「おとなから体をさわられた等」3名(13.0%)が多い。

そして、そのときの対応としては、「がまんした」9名(39.1%)との回答数が最も高く、「その他」で家出をしたと答えた子どももあった。

6 意見を「あまり聞かれない」と答えた子どもが多い。

一時保護所や児童養護施設で意見を「あまり聞かれない」10名(43.5%)、「まあ聞かれる」7名(30.4%)、「聞かれる」4名(17.4%)、「聞かれない」2名(8.7%)であり、「聞かれる」「まあ聞かれる」を合わせた数(47.8%)は「聞かれない」「あまり聞かれない」を合わせた数(52.2%)を若干下回る。

自分で決めたいと思うことは、「ふだんの服、ファッション」10名(43.5%)、「一時保護所・児童養護施設で持っているいい物」10名(43.5%、一時保護所では5名・100%)、「つき合う友だち」9名(39.1%)、「家への一時帰宅」9名(39.1%)、「親との面会・通信」8名(34.8%、一時保護所では5名・100%)が多い。

7 一時保護所や児童養護施設はホッとできるところかについての評価は分かれる。学校はホッとできる場になっている。

一時保護所や児童養護施設はホッとでき安心していられるところと「思う」5名(21.7%)、「まあ思う」8名(34.8%)を合わせると13名(56.5%)、「あまり思わない」7名(30.4%)、「思わない」3名(13.0%)を合わせると10名(43.4%)と、回答は分かれている。肯定する理由としては、「友だちや職員と一緒にいられるから」9名(39.1%)が多い。

学校はホッとでき安心していられるところと「思う」8名(34.8%)、「まあ思う」12名(52.2%)を合わせると20名(87.0%)と、第1部の調査結果(75.6%)より圧倒的に多い。その場所は「教室」13名(56.5%)が多く、その理由は「友だちがいるから」15名(65.2%)、「困ったときに相談できる人がいるから」6名(26.1%)が多い。児童養護施設に入所している子どもたちにとって、学校は、施設とは別の意味でホッとできる場所になっていると思われる。

それ以外の場でホッとでき安心していられるところ(児童養護施設のみ)は、「親の家」10名(55.6%)、「友だちの家」8名(44.4%)が多く、家庭的な環境でホッとできると答える子どもが多い。

8 何でも話せる人がいない子どもが約1 / 4見られた。

何でも話せる人が身近に「いる」17名(56.5%)「いない」6名(21.7% 児童養護施設のみでは5名・27.8%)との回答であった。

「いる」と答えた子どもにとって、それは「友だち」15名(65.2%)が最多であり、「親」6名(26.1%)「兄弟姉妹」6名(26.1%)「一時保護所・児童養護施設の職員」5名(21.7%)と続く。

9 学校生活や地域について発言をしたい答える子どもが多く、参加の意欲が高い。

学校生活に関する発言をしてみたいと「思う」3名(13.0%)「まあ思う」10名(43.5%)を合わせて56.5%であり、第1部の調査結果49.3%を上回る。

また、地域の環境や活動について発言したいと「思う」3名(13.0%)「まあ思う」12名(52.2%)を合わせて65.2%であり、第1部の調査結果43.7%を上回る。

10 児童養護施設では、地域でスポーツや行事に参加している子どもが多い。こども文化センターを利用する子どもはいるが、子ども夢パークを利用する子どもは少ない。

児童養護施設の子どもたちは、地域でスポーツや行事に参加「している」10名(55.6%)「まあしている」4名(22.2%)を合わせて77.8%と高い割合であった。

こども文化センターを「まあ利用する」(児童養護施設のみ)6名(33.3%)子どももいた。利用しない理由としては、「なにをしているかわからない」4名(22.2%)「利用方法がわからない」3名(16.7%)のほか、「その他」として、「先生にいわないといけないから」との回答があった。

子ども夢パークは、「利用する」0名(0%)「まあ利用する」2名(11.1%)を合わせて11.1%と著しく低い。その理由は、「どこにあるかわからない」14名(77.8%)が圧倒的に多く、「なにをしているかわからない」4名(22.2%)「その他」として「子ども夢パークを知らない」との回答もあった。

11 その他(自由記述)

一時保護所でも児童養護施設でも、「いじめ」の問題に言及する子どもがいた。

(2) ヒアリング調査結果

方法：平成 17(2005)年 6 月～7 月 川崎市の一時保護所（1 か所）及び児童養護施設（2 か所）で実施

対象：19 名（男 7 名、女 12 名）

一時保護所	5 名	児童養護施設	14 名		
高 2	2 名	中 3	4 名	小 6	2 名
高 1	2 名	中 2	3 名	小 5	3 名
		中 1	3 名		

ヒアリング調査においては、児童養護施設では、一時保護所に比べて、子ども達の安堵感が感じられる結果が見られた。

さらには、一時保護所と児童養護施設に共通の課題として、年長児童の居室、生活空間の確保が急務であることが明らかとなった。また、子どもたちにとっての深刻な問題として「いじめ」があることも明らかとなった。

1 年長児童の「居場所」について

年長児童より、

- ・ 部屋では小さい子がうるさくて勉強ができない。
- ・ 特に試験の時期は勉強に集中できなくて困る。
- ・ 小さい子がうるさくて 1 人で考えられない。

等の声があり、年長児童が落ち着いて生活できる場、ときには 1 人になれる場について、配慮する必要があることを窺わせた。

2 生活について

生活のルールについて、

- ・ 門限が早すぎる。
- ・ 携帯電話を持ちたい。

等の声があった。

3 職員について

児童養護施設においては、職員に対する不満は少なく、忙しいとき以外はよく話を来てくれるという声があった。ただし、話の内容はあたりさわりのないものであり、本当に重要な話ができているかはわからない。また、理由なく叱られたり、叩かれたりしたことがあるとの声もあった。

一時保護所においては、職員が忙しくて話を聞いてくれないとの不満が多く聞かれた。

4 意見表明の方法

児童養護施設においては意見を書いて入れる箱が設けられているが、記名式なので使いづらく、あまり使われていない、との声があった。

5 一時保護所における学習の保障

一時保護所においては、学習時間が不十分、勉強する中身が易しすぎて自分に合わず、学習の遅れが気にかかる、等の声があった。

6 その他

児童養護施設において、里親の家に行くのが楽しみ、という声があった。

児童福祉司について、1年に1回来るが、毎年担当が代わっているため、顔を覚えても仕方がない、という声があった。